

由良興国寺

千葉宣嗣

第62回、zoomにて清水さんの大安寺の笹酒祭り話しの中に、懐かしい虚無僧の事を言って居られましたが、その午後に偶然、youtubeを見て居りました所、作家若一氏の和歌山由良の安国寺を探訪記事が放送されていて、懐かしく、少し調べて見たく成りました。磯釣りを始めたのがこの由良湾の有島と言う小さな島からでした。幾度となく門前を通りましたが虚無僧の方々が修行されているだけの寺だと思っていましたが、大変に由緒の有る事を知り、聊か恥じております。未だ紀勢線に乗り、バスにて海岸へ行くだけで、門前から眺めて長い奥までの道のりの先までは考えませんでした。50年位の昔話しです。少しお付き合い下さい。



興国寺、源実朝の家臣で有った葛山景倫は承久元年（1219年）実朝暗殺を機に出家、高野山金剛三昧院に修行、僧願生となり、暗殺された主君の菩提を弔う為に創建したもので、当時は、真言宗西方寺と称していたが、生母の北条政子は願生の忠誠心に報い、西方寺のある由良荘の地頭に任命した。願生は親交の有った、心地覚心（法燈国師）が宗から帰国

すると、正嘉二年（1258）に西法寺の住職に迎えて開山とした。その後、後醍醐天皇より寺号の興国寺を賜った。覚心は普化尺八を奏する居士四名を宋から連れ帰り、興国寺に住まわせたので、以後当寺は普化尺八の本山的な役割を持つ様に成った。その弟子の一人、虚竹禅師（寄竹）が尺八の元祖と言はれていて、宋で習得した金山寺味噌の製法が弟子から人々に伝わり、やがて金山寺味噌の上澄みから醤油が誕生するきっかけと成ります。隣り村の湯浅が醤油の最初だと言はれています。改めて勉強させて頂きました。



詳細付記

興国寺は鎌倉幕府 3 代将軍・源実朝が、建保 7 年（1219）に暗殺された後、安貞元年（1227）に、家臣・葛山景倫（かずらやまかげとも）がその菩提を弔うために創建した名刹。景倫は実朝の命を受け、宋の山々の絵図を写すため博多で風待ちをしていたところ、実朝暗殺の報せが届きました。それを聞いた景倫は宋への渡航を取りやめ、剃髪して「願性（がんしょう）」と称して高野山に入ります。この出家を知った実朝の母・北条政子は、願性の生活費として日高郡の由良荘地頭職を与え、願性は同荘内に西方寺を創建。その後、西方寺は宋から帰国した僧・覚心を招いて臨済禅寺院となり、南北朝時代に後村上天皇より「興国寺」の寺号が与えられるなど、時の権力者の庇護を受けながら発展を遂げました。興国寺にとっての最大の危難は、天正 13 年（1585）の秀吉による紀州攻め。これによって寺院建築の大半が失われました。現在の興国寺の法堂・伽藍・鐘楼・書院などは、慶長 6 年（1601）に当時の紀州藩主浅野幸長により再建されたものです。静かな日高の山々にそびえる見事な伽藍の数々、興国寺と共に由緒ある神社や歴史・伝承のロマン薫る史跡に思いを馳せてみましょう。

天狗伝説が残る興国寺ですが下の天狗堂にある「天狗命根石」の中には、数億年前の水が閉じ込められており、これを撫でながら願い事をするると必ず叶うと言はれて居ります。又、近くの戸津井鍾乳洞は2億5000年前のベルム記に出来た石灰洞穴がありますので、是非とも御覧下さい。

